

今日のトピック

日本株市場、不安定な相場が続く

ポイント1 年初来マイナスに沈む

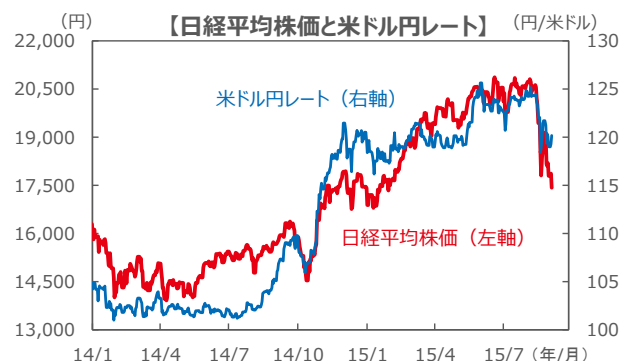
中国の景気減速懸念が強まる

- 8日の日経平均株価は、前日比▲433.39円安の17,427.08円と昨年末終値を下回りました。取引開始直後は4-6月期GDP改定値が上方修正されたことを手掛かりに一時100円超の上昇となりましたが、その後、8月の中国の輸入の落ち込みが嫌気され、さらに景気ウォッチャー調査の景況感悪化を受け、大きく下落しました。
- 米ドル円レートは、午前は一時的に119円を下回る場面もありましたが、景況感悪化などから日本時間の17時時点では120.16円と円安が進みました。

ポイント2 8月の中国の輸入が大幅減

中国株は5営業日ぶりに反発

- 8日に発表された8月の中国の輸入（米ドル建て）は、前年同月比▲13.8%と市場予想（ブルームバーグ集計）の▲7.9%を大きく下回りました。内需の減速がうかがわれます。
- 上海総合指数は、統計発表後は下げ幅を広げたものの、その後、心理的節目とされる3,000ポイントに接近したことが意識され、国有ファンドが買い支えたとの見方が広がり、終値は前日比+2.9%と5営業日ぶりに上昇しました。



(注) データは2014年1月6日～2015年9月8日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データは2014年1月6日～2015年9月8日。アジア・オセアニア株は、MSCI ACアジア・パシフィック（価格指数、現地通貨ベース）で2015年9月7日まで。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 不安定な展開が当面続く見込み、企業収益拡大が下値を支える

- 中国の景気は、景気対策の余地から大きな下振れは回避されそうです。ただし、住宅市場や公共投資の改善などで、それが確認されるには、まだ時間がかかりそうです。
- 米国の利上げについては、16日～17日に開催される米連邦公開市場委員会（FOMC）で実施される観測は後退していますが、声明文などでの情勢判断に注目が集まります。
- 米利上げの見通しがより明らかになり、また、中国の景気への不安が和らぐにつれて、株価は、企業収益の拡大に沿った展開に戻ることが期待されます。

ここも
チェック! 2015年 9月 4日 中国の「政策運営と経済指標」(中国)
2015年 9月 2日 好調さを示す「法人企業統計」(日本)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。